

平成29年度 佐賀県立有田工業学校 学校評価計画

1 学校教育目標 平和で民主的な社会の形成者として、個性豊かで人間愛に満ち、国際的視野に立って社会に貢献できる、心身ともに健全な人間を育成する。 ・地域を愛し、地域から愛される有工生を育て、地域に根ざした学校として更なる発展を目指す。 ・学力の向上を図るとともに、文武心三道確立を目指し、光り輝く有工生を育てる。 ・夢や目標を持ち続けるチャレンジ精神豊かな有工生を育てる。	2 本年度の重点目標 ① 挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ② 学力向上対策の推進による進路保障 ③ 生徒会活動、部活動の活性化と文武心三道の確立 ④ UDと5S運動(整理 整頓 清潔 清掃 躰)の推進 ⑤ 保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育 (社会規範定着マナー向上)	基本的生活習慣の向上	外部評価のアンケート結果において「4(よくできている)」の割合60%以上をめざす。	学校生活チェックシートを活用し生徒の服装や学校生活についての意識向上を図る。また毎日の登校指導において挨拶を交わし挨拶についての意識向上を図る。
			登下校時の通学マナーの向上	通学アンケートを実施し、生徒自身が通学マナーについての自己評価を行う機会を設定する。また列車指導、自転車立哨指導を定期的実施する。
	○人権・同和教育	人権・同和教育の推進	いじめ、差別などの人権問題に関心を持ち、積極的に取り組む生徒を育成する	・1年ネットいじめ、2年ノーマライゼーション、3年進路保障のテーマで、1・2年生は9月、3年生は6月に人権学習・進路保障ホームルームを実施する。 ・11月に部落問題学習に関する講演会とホームルームを実施する。
	●いじめ問題への対応	早期発見、実態把握に向けた全体的な体制の推進	学校生活において、他者への思いやりの心を育てることで生徒一人ひとりが安心・安全に学校生活を送れるようにする。	学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努める。また全校集会の時間を利用しいじめ防止に向けて啓発を行う。

②学力向上対策の推進による進路保障

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	図書館利用の推進	生徒一人あたりの年間貸し出し冊数は8.5冊を目指す。	・朝読書や全校読書を通して生徒の図書館利用を促す。 ・図書館だよりで「新着本」を全て紹介し生徒の読書意欲を喚起する。 ・古い資料の廃棄等によって図書館の整備を進める。
		基礎学力の定着	基礎力テストにおいて、平均9点以上の生徒数1割増および5点未満の生徒数1割減を目指す。	・各科、各クラスで基礎力テストに対する意識付けを行う。 ・プロジェクトVの強化
		家庭学習時間の増加	全学年で前年比1日平均30分増を目指す。	・各教科で課題等を適切に与えて、回収する指導を行う。 ・適正な帰宅時間を習慣づける。
	○進路保障	進路意識の形成	生徒自身が、自己の進路目標を明確化・具体化するなど主体的に決定できるようにする。	・「進路のしおり」や「ポートフォリオ」を活用したLHRの充実を図る。 ・企業訪問や新聞記事等の進路に関する情報を提供し、進路に対する意識の高揚を図る。 ・県内企業紹介会や進路ガイダンスを実施し進路目標の設定や進路選択に役立てる。 ・インターネットを活用して企業や学校について調べさせる。
		進路保障	就職内定率・進学決定率共に100%を目指す。	・選考試験一次合格率90%以上を達成するため、進路対策補習や模擬面接を充実し、基礎学力および面接時の対応力の向上を図る。 ・前年度までの受験報告書を活用した受験対策を立てさせ、目標達成のための努力を継続させる。 ・継続した個人面談および進路相談の実施により、進路選択から決定までの支援を徹底する。
	○資格取得	資格取得指導	ジュニアマイスター認定 ゴールド10名、シルバー25名、校内表彰80名以上	・顕彰制度、表彰制度を生徒・保護者・職員へ周知させる。 ・資格取得、コンクール参加を奨励、補習体制の充実
ものづくり		各種競技会や公募展・コンクールなどに積極的に出場・出品をさせ、最優秀賞または1位を目標に、多数の入賞を目指す。	・授業・補習等の指導を物心両面から充実させ競技会へ万全の体制で挑ませる。 ・公募展の主旨説明を行うなど積極的参加を奨励し、授業・補習・部活動など多方面からの指導を行う。	

③生徒会活動、部活動の活性化と文武心三道の確立

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○部活動・学校行事の活性化	学校行事の充実	学校行事への全生徒・全職員の主体的参加	・事前準備と指導、連絡を早期よりしっかりと行い、全職員、生徒で作る行事にする。 ・職員と生徒の意見を随時聞き取りながら、常に方向性を吟味する。 ・生徒会職員、生徒執行部を中心に必要に応じてクラス、学年、科、部活動、全体のまとまりある連携を取りながら進める。
		部活動の充実	各部の積極的な取り組みと目標達成	・顧問会議を通して情報交換を行い、活性化に向けた提案などを受ける。 ・生徒の実態を把握した上で、主体的な活動としての部活動を作り上げる。 ・部活動の成果として、精神的協調、協力、身体的成長、練磨をあげる。

④UDと5S運動(整理 整頓 清潔 清掃 躰)の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒会活動	UD思考の考え	UDの視点を取り入れたものづくり、ボランティア活動、UDの啓蒙活動の実施	・課題研究などを通して、UDの視点を推奨したものづくりを勧める。 ・学校周辺の環境美化に貢献する。 ・月1、学期1の新聞発行を通して、震災支援や防災、UDの啓蒙を行う。
		●心の教育	環境整備・美化	5S運動を推進し、安全教育の充実と環境意識を高める。

⑤保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校経営	○開かれた学校づくり	保護者会との連携	PTA総会の出席率85%以上を目指す。	講演会や進路情報などで保護者が関心を持てる内容を行う。
		情報発信	ホームページの内容の充実および保護者への浸透。少なくとも週に複数回の更新	・逐次ホームページの情報を更新する。学校案内などとの整合性を保つ。 ・ホームページ管理更新の組織を明確にし、更新人員の拡充を行う。
教育活動	○キャリア教育支援	キャリア教育の充実	キャリア教育に関する生徒満足度80%以上 生徒の希望するインターンシップ受け入れ事業所を確保する。	・将来の進路を想像できる実技や講義を計画的に実施する。 ・実際に生徒が就職した実績のある事業所を開拓する。
		◎教育の質向上に向けた、ICT利活用教育の実施	授業・校務でのスキルアップ	ICTを活用した授業展開を念頭においた研修会への職員参加100%を目指す。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	口腔内の健康に対する意識を高め、歯科受診率30%以上を目指す。	・保健便りや食育便り等について、歯科の健康に関する情報を増やすとともに、定期健康診断結果の早めの通知と、学期末の再連絡を行う。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目